

UL-10 3S・UL-20 3S

シェルターは野営(野外での宿泊)目的でかつ重量・収納サイズをおさえることを目的に設計されています。最低限の強度しかありません。経験値のある方のご使用を強くお勧めします。

使用人数

UL-10 3Sは1人用、UL-20 3Sは2人用として設計されています。
それを上回る人数で使用すると、相対的に通気量が不足し窒息することがあります。

天 候

極端な軽量化をしているため、十分にリスクがあることを理解してご使用ください。

- ・強風 風の強い時は使用を控えてください。どうしても使用しなければいけない時は別売の張綱4本セット(OGK-3108)等を使いテントを固定してください。
- ・雨 雨が強い時は使用を控えてください。生地が薄く防水性も低いためテント内に浸水することがあります。
- ・雪 外張りの装着ができません。降雪時は使用を控えてください。
- ・耐用年数 合成樹脂や合成繊維は保管状況により劣化の進行具合に差が出ます。シーズンオフには各部点検をして、問題があれば販売店もしくはHCS社にご相談ください。

テント設営

天場で設営することを基本に設計しています。

- ・地面: テントを設営する地面としては、水平で平坦な所が適しています。凹凸のある所は寝心地が悪いだけでなく、テントが設計通りの形にならないことがあります。
※軽量化優先の為、最低限の耐水性と強度しか保有していないので、それらを補う場合は、別売りのグランドシートの使用を推奨します。
- ・地形: 雨水の通り道になる所(谷状の地形)、雨水がたまる所(くぼ地)に設営すると、テント内に浸水します。
また、風の弱い所を選ぶことも大切です。日差しが強すぎる所では、日中にテント内が高温になります。(夏期にはしばしば70℃を超えます)

テント内での火器使用

小型の火器を使用しても通気量が不足することはありますが、たいへん危険です。通気の確保、火災時の避難経路などをあらかじめ確認することが必要です。また、火器の取り扱い説明書をよく読み、注意事項をしっかりと認識し厳守してください。

◆テント各部分の説明

シェルター本体(壁と土台)・・・四隅を地面に固定して使用します。また、柱(ポール)を固定する設計になっています。

柱・・・・・・・・・・・・・・ポールとも呼びます。ゴムヒモの繋ぎ通りに組み立てます。テント本体に取り付けて使用します。

ベグ・・・・・・・・・・・・・・テントや張綱を地面に固定する杭です。

張綱・・・・・・・・・・・・・・主に、風の強いときにテントを安定させるために使用します。

◆テント使用中に起きた過去の事故例

※崖の直下に設営後、長雨で崖崩れが発生。また、落石や野生動物が落下してくる危険もあります。

※河原で設営後、上流部の集中豪雨で急激に水増し、野営中の人々がテントごと流されました。また、海岸や湖畔(特に人造湖)なども水位の変化により浸水した事例があります。

※開けた高地に設営後、落雷が直撃しました。

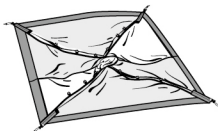
※高圧線の直下で設営中、組み立て中の柱(ポール)が高圧線に接触し感電しました。

※温泉地のくぼ地に設営後、夜間に無風になり、毒ガス中毒が発生しました。

※テント内で火器を使用後、通気量不足により窒息。
また、火災の発生事例もあります。

収納袋の中身を見てみよう

テント本体



- ※ベグ・張綱は付属していません。ご自身のスタイルに合わせて別売り品をご購入ください。
- ・ベグ OGK3105/OGK3102
 - ・張綱4本セット OGK3108